



倉敷市日本遺産推進協議会 平成29年度「日本遺産魅力発信推進事業」
(事務局)倉敷市日本遺産推進室 〒710-8565 倉敷市西中新田640 tel.086-426-3018 fax.086-426-5131

www.city.kurashiki.okayama.jp/kura-story

日本遺産
倉敷市

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

※写真はイメージです。



Agency for Cultural Affairs

Government of Japan

(2018年3月)

干拓によつて
生まれた町は、
やがて大きな
歴史を
織り上げる。

倉敷川には観光客を乗せた
川舟が行き交い、しなやかに
揺れる柳の奥に広がる白壁
商家群と洋風建築が調和す

る町並みには、四季を通じて
多くの人々が訪れています。

今から遡ること約四百年、倉
敷市は、大小の島々が点在す
る穏やかな内海でした。その

後、干拓によって一帯が陸続
きに、干拓地での綿の栽培が
始まる、その取引と人々の
往来で町は大きく繁栄しま
す。運河として利用され問屋
や仲買人で賑わった倉敷川。
北前船の寄港地として栄え
た玉島や下津井の港町。それ
らの町並みは今もなお面影
を残し、往時を偲ぶことができます。さらに綿花栽培から

発展した繊維産業は、多彩な
製品を生み出し、現代へと続
く「日本一の繊維のまち」の
礎となりました。

先達の創意工夫によつて時
代と共に歩んできた、繊維の
まち倉敷市。この長い歴史の
中で紡がれてきた、人々の営
みと想いの軌跡を紐解いて
みましょう。

第 1 章

江戸時代初期～

～綿花を育む人、町、港～



第 2 章

江戸時代中期～

～繊維産業の発展と西洋との融合～



きぬがさ ごうこく びっちゅうくらしきず
衣笠 豪谷「備中倉子城図」
明治 25 年 (1892)

大正4年に刊行された「豪谷画集
遺墨集」にも掲載されている本作
は、全長269.5cmの巻物で、倉敷の
中心部から、ほぼ360度見渡した風
景を描いた作品。

第 3 章

～現代

～日本から世界へ人と技術が拓く次世代の扉～



綿花を育む人、町、港。

一輪の綿花から始まる倉敷物語
～和と洋が織りなす纖維のまち～

かつて海だった倉敷(右)と現在の様子(左)

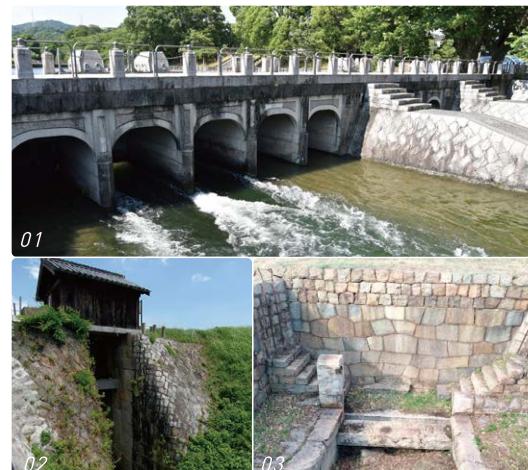
約400年前までは内海が広がり、玉島・児島などの地名は島であったことに由来する。今は約48万人が暮らす都市として発展している。



「倉敷」の物語 「綿花から始まる纖維のまち」

倉敷市が位置する岡山県の南部一帯は、かつては「吉備の穴海」と呼ばれ、島々が点在する見渡す限りの海でした。その海は高梁川からの沖積作用で徐々に浅くなり、さらに近世以降の干拓によって陸地に姿を変えています。干拓されたばかりの土地は塩分が多く、米作りには向きません。そこで塩分に強い綿やイ草の栽培が始まり、倉敷市の纖維産業の礎が築かれました。四百年続く物語の始まりは、干拓地で育てられた「一輪の綿花」だったのです。

また、江戸時代初期に造られた水門などが、高梁川から豊富な水の供給を可能とし、多くの人々の暮らしを支えることとなりました。



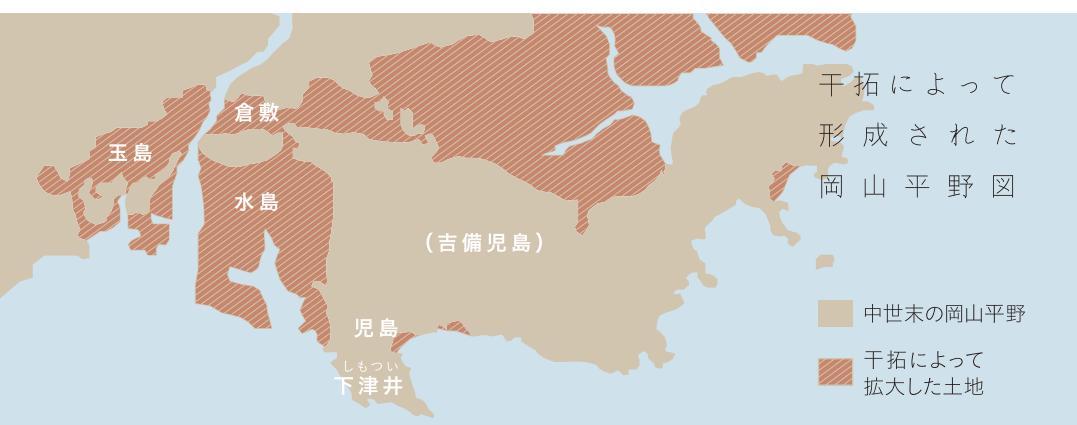
「塩田王」と呼ばれた福田新田を開発した野崎武左衛門。

江戸後期、足袋業を営んでいた野崎武左衛門は塩田開発に目を向け、野崎浜（JR児島駅周辺）など約160haの塩田を拓きました。大規模な開発は武左衛門一代で成し遂げられ、「塩田王」の名を馳せました。また福田新田の開発にも携わり、嘉永4年（1851）に完成させました。



旧野崎家住宅
野崎武左衛門の居宅。約3000坪の敷地に、母屋や庭が当時のまま保存されている。土蔵では塩業の歴史資料を見ることができる。
倉敷市児島味野1-11-19 tel.086-472-2001

- 01 高梁川東西用水取配水施設
高梁川改修工事に伴い建築された農業用水施設。大正期から残る鉄筋コンクリート造の樋門として価値が高い。
倉敷市酒津 tel.086-422-0219(高梁川東西用水組合)
- 02 一の口水門
玉島港と高梁川を結ぶ水門で、高瀬舟の通行のため江戸初期に整備された。
倉敷市船町水江 tel.086-426-3851
(倉敷市教育委員会 文化財保護課)
- 03 板敷水門
江戸後期、福田新田の干拓の際に使用された排水用の水門。
倉敷市南畠4丁目、潮通3丁目 tel.086-426-3851
(倉敷市教育委員会 文化財保護課)



「綿」によつて 栄える

「町」と「港」。

倉敷は寛永19年（1642）に幕府直轄地、いわゆる「天領」となって以降は、周辺の直轄領をまとめる政治の中心地であるとともに、備中南部の物資の中継地として発展しました。さらに江戸中期以降、干拓地で綿やイ草などの換金作物が盛んに生産されるようになります。その様子は江戸後期の紀行文にも「見渡す所の田地に、過半は綿を植えた綿畑が広がっていたことが伺えます。

当時の日本の物流を担っていた北前船の寄港地であった玉島や下津井の港町では、綿作の肥料となる大量の干鰯やニシン粕が買われ、くり綿や綿製品、塩などが出荷されました。玉島港の記録によると、売り買いされる商品の実に八割が綿関係で占められるほどであったとが綿関係で占められるほどであったと



玉島町並み保存地区

江戸期の備中松山藩の干拓により、海から陸地となった港町。干拓地で栽培された備中綿を扱う問屋が立ち並び、「西の浪速」と呼ばれるほど繁栄した。当時を物語る虫籠窓や格子を備えた本瓦葺きの商家、なまこ壁の土蔵など、歴史的な景観が色濃く残っている。

倉敷市玉島阿賀崎～玉島中央町

明治時代に描かれた「備中國玉島港之圖」

江戸期に全国各地への物資の輸送を行っていた北前船の寄港地であった玉島港。当時の様子を描いた絵図からも、軒を連ねる問屋や船が行き交う賑わいを伺うことができる。



旧柚木家住宅(西爽亭)
備中松山藩に仕えた玉島の庄屋・
柚木家の住宅。港の商談や接待に
使用された茶室も備えている。
倉敷市玉島3-8-25 tel.086-522-0151

いいます。また金比羅山との両参りで賑わいをみせていた由加山の門前町では、土産物として綿製品である真田紐や小倉織がもてはやされるなど、綿花栽培は地域発展の基盤となりました。この一帯で生産された綿は全国に流通し、倉敷に富をもたらす源となつたのでした。

讃岐金比羅山との「両参り」で 賑わった「蓮台寺」「由加神社」。

江戸・明治の時代、金毘羅大権現(金刀比羅宮)のお参りは人々の憧れでした。そして、その人々は、本州から四国へ渡る旅の安全を祈願するため、日本三大権現の一つである瑜伽大権現(蓮台寺・由加神社)に参拝するようになります。次第に両社へのお参りが人気となり、「両参り」と呼ばれるようになりました。



蓮台寺
奈良時代に行基が開基したと
伝えられ、江戸期には岡山藩主
池田家の厚遇を受けていた。
倉敷市児島由加2855
tel.086-477-6222



由加神社
かつては瑜伽大権現を奉祀する
社殿だったが、明治の神仏分離令により神社となった。
倉敷市児島由加2852
tel.086-477-3001



01 下津井町並み保存地区
北前船による綿花やニシン粕などが取引され、四国へ渡るための宿場町としても栄えた港町。
倉敷市下津井

02 むかし下津井回船問屋
回船問屋を改修した資料館で、商家の繁栄を今に伝えている。
倉敷市下津井1-7-23
tel.086-479-7890

03 下津井節
北前船の船頭衆によって広まり唄い継がれた民謡。唄い手の全国大会が毎年行われている。

近代化を歩む。

西洋との 発展と 融合。

一輪の綿花から始まる倉敷物語
～和と洋が織りなす織維のまち～



倉敷川畔伝統的建造物群保存地区
倉敷川を中心に、格子窓の町屋やなまこ壁の土蔵などの建物と
鶴形山の緑や川畔の柳並木が調和する景観が広がっている。
倉敷市本町・東町

運河として利用された倉敷川の周辺は、綿などを扱う問屋や仲買人で賑わい、成功した商人たちは豪壮な屋敷を建ててその富を誇りました。現在も倉敷川沿いには、川港の繁栄を物語る当時の荷揚げ場や路地の石畳、常夜灯などが残り、興りゅうを象徴する白壁の商家の建物が軒を連ねています。その質実で無駄のないデザインは、重厚さの中にも明るさを備え、往時の商人たちの活躍を今に伝えています。明治時代になると、政府は殖産興業のもと、外国産の綿糸に対抗するために民間紡績業の育成を奨励しました。倉敷では国内最初の民間紡績所である下村紡績（倉敷市児島）が明治13年（1880）に、玉島紡績（倉敷市玉島）が明治14年（1881）に設立。さらに明治21年（1888）には、イギリス式の最新の機械と工場施設を備えた倉敷紡績がつていったのでした。

倉敷の「ハレの日」を祝う。

江戸期以来の干拓地からの恵みを背景に、有力町衆の自治のもとで祭りや郷土料理などの豊かな文化が育まれ、現在も受け継がれています。



ぱばずし
倉敷の商家では、祭りの日に隣人を自宅に招き、海や山の幸を盛り付けたぱばずしを振舞った。



すいんきょ
年を取り、秋祭りに参加できなくなったご隠居が、面を作らせ代わりに参加させたことが起源とされる。



くらしきびょうぶまつり
阿智神社の祭礼で、各家が通りに向けて屏風や花を生けて人々をもてなしたことから始まる。

有力者たちの暮らしぶりを現代に伝える美しい歴史建造物



01 語らい座 大原本邸(旧大原家住宅)
江戸後期から商人・地主として村政を牽引し、明治以降も町の発展に貢献した大原家の邸宅。白壁に独特の意匠が美しい。
倉敷市中央1-2-1 tel.086-434-6277

02 大橋家住宅
江戸後期、新田開発などで財をなした大橋家の邸宅。倉敷を代表する町屋のひとつで重厚な屋敷構えからは当時の富が伺える。
倉敷市阿知3-21-31 tel.086-422-0007

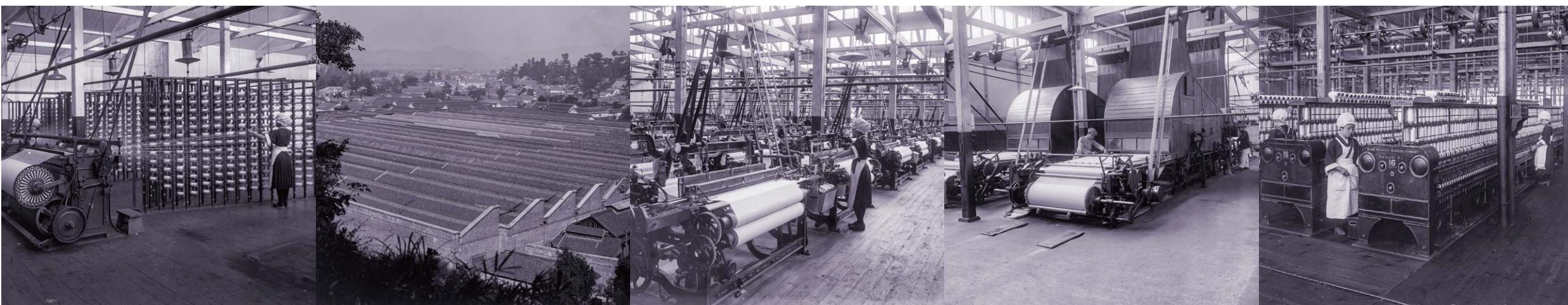
産業と文化が華ひらき 町並みへ。

明治以降の近代化により紡績産業のまちとなつた倉敷は、明治30年（1897）頃には約八十の紡績工場が立ち並ぶまでに発展しました。

こうした中、倉敷紡績所（現クラボウ）は国内有数の紡績会社へと成長。当時社長を務めた大原孫三郎は、若手画家の育成や西欧名画の収集、地域

病院の設立、孤児院の支援など、当時としては先進的な文化・社会・福祉事業を展開しました。さらに民芸運動への支援や農業研究所の設立など幅広い分野にも着手し、現代につながる文化的な基礎を築きました。

また倉敷川沿いには、文明開化の伸びやかな感性により生み出された、ギリシャ神殿風の大原美術館などが建てられました。これらの洋風建築は白壁が連なる江戸期の商家群の中において、当時の紡績業の隆盛を伝えるシンボルとして風景のアクセントとなり、現在も町の魅力を一層際立たせています。



大原孫三郎が支援した民芸文化

民芸品とは、人々の暮らしの中で使われる丈夫で美しい品々。倉敷には民芸文化が花開き、酒津焼、羽島焼、倉敷ガラス、緞通など数多くの民芸品が生まれました。

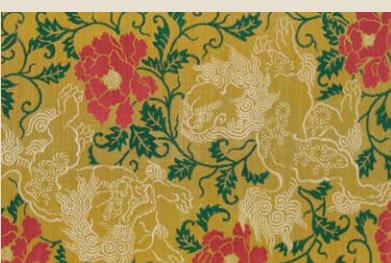


イ草を芸術品に高めた磯崎眠亀と豪華絢爛な錦莞筵。

江戸時代の干拓以降、綿と並んでイ草も現在の倉敷市の庄・茶屋町地区を中心に栽培されていました。明治時代に入ると、小倉織を扱う商人、織元の家に生まれた磯崎眠亀が明治11年（1878）に高級花筵である錦莞筵（紋様織込）を発明します。海外に輸出も開始し、日本の重要輸出品目にまで成長しました。現在は生産されていませんが、岡山県のイ草製品が発展するきっかけとなりました。



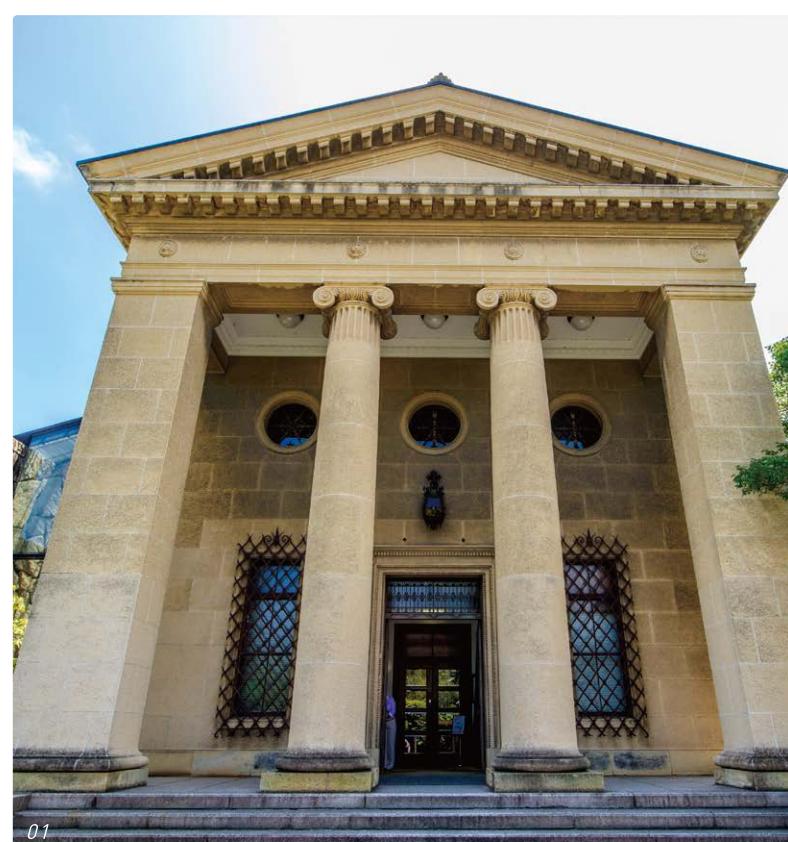
磯崎眠亀記念館
磯崎眠亀の功績を記念し、住居兼作業場を改築した資料館。
倉敷市茶屋町195 tel.086-428-8515



磯崎眠亀
磯崎眠亀が発明した精巧緻密な紋様織込花筵。染色したイ草を縞糸に、綿糸を縦糸として模様を織り込んでいる。

01 大原美術館

倉敷の実業家、大原孫三郎が昭和5年に建てた、日本初の西洋近代美術館。エル・グレコの「受胎告知」をはじめ、世界の巨匠の作品が展示されている。
倉敷市中央1-1-15 tel.086-422-0005



01

02 倉敷館

紡績業が盛んであった大正6年に倉敷役場として建てられた洋風の建築。現在は観光案内所として利用されている。
倉敷市中央1-4-8 tel.086-422-0542 (倉敷館観光案内所)



02

03 有隣莊

大原孫三郎が建てた大原家の旧別邸。和洋折衷の佇まい、角度によって見える瓦から、別名「縁御殿」とも。倉敷市中央1-3-18 tel.086-422-0005 (大原美術館)



03

04 旧中国銀行倉敷本町出張所

大原孫三郎が頭取を務めた第一合同銀行の倉敷支店。漆喰レリーフなど、ルネサンス風の様式をしている。
倉敷市本町3-1



04

日本から世界へ

人と技術が拓く
次世代の扉。

一輪の綿花から始まる倉敷物語
～和と洋が織りなす繊維のまち～

倉敷の多彩な繊維製品

丁寧な手しごとにより作り上げられた高品質な繊維製品が、現在も倉敷市で生産されています。



倉敷アイビースクエア

明治期、旧代官所の跡地に創設された倉敷紡績所(現クラボウ)の工場を改装し、ホテルや記念館などに活用した複合交流施設。日本の近代化産業遺産に指定。
倉敷市本町7-2 tel.086-422-0011

時代と共に新たな魅力が生まれる

繊維産業と文化の町。

「綿花」から展開された四百年にわたる物語。先達の技術と文化にかかる想いを受け継ぎ、今日も新たな可能性に挑戦している人々によって、繊維のまち倉敷の次なる物語が始まっています。

よつて、足袋、学生服、作業着などの様々な製品が生み出されてきました。特に大正以降は服装の洋風化によって、学生服が急速に市場に浸透。紡績・撚糸・織物・染色・縫製という一貫した生産体制によって、昭和初期には全国の学生服の七割を児島産が占めるまでになりました。昭和40年(1965)にはそうした縫製の技術を活かし、国内初のジーンズを販売。児島は「国産ジーンズ発祥の地」と呼ばれるようになり、今日ではその加工も含めた生産技術は世界のジーンズ産業に大きな影響を与えています。こうして倉敷は繊維製品出荷額国内第一位(総務省平成28年経済センサス・活動調査による)を誇る「日本一の繊維のまち」となったのです。

時代を乗り越えた繊維産業

明治から大正にかけ生産を伸ばした「足袋」ですが、その後の洋装化で衰退します。しかし、培われた裁縫技術を生かし「学生服」の生産を開始。その学生服もメーカーの系列化で多くの事業者は、新しい道を余儀なくされました。すると今度は当時流行っていた「ジーンズ」に着目。瞬く間に人気商品となりました。先人の工夫の上で繊維製品は現在につながっているのです。



一方、江戸期以来の伝統産業に当時の先端技術を織り合わせながら発展を続けてきた倉敷の繊維産業。「織り」や「縫製」など連綿と続く技術の研鑽に、古い建物を時代に合わせて活用し、倉敷の町並みは魅力を増していきました。現在でも町家や土蔵を改装したカフェやレストラン、手仕事による繊維雑貨を取り扱う店舗が軒を連ね、国内をはじめ、海外からも訪れる多くの観光客を魅了しています。

戦後、大原孫三郎の長男で倉敷紡織(現クラボウ)の社長であった大原總一郎により、昭和23年(1948)に江戸時代の米倉を改装した倉敷民藝館が開館。昭和49年(1974)には倉敷紡績所(現クラボウ)創業時の工場を再生整備した倉敷アイビースクエアが開業するなど、古い建物を時代に合わせて活用し、倉敷の町並みは魅力を増していきました。現在でも町家や土蔵を改装したカフェやレストラン、手仕事による繊維雑貨を取り扱う店舗が軒を連ね、国内をはじめ、海外からも訪れる多くの観光客を魅了しています。



倉敷民藝館

倉敷市の古民家再生第1号。江戸後期の米倉を改装し、館内には国内外約1500点の民芸品が展示されている。
倉敷市中央1-4-11 tel.086-422-1637



倉敷考古館

江戸期の米倉を改装し、吉備の考古資料を展示する博物館。東壁一面の「なまこ壁」が美しく、倉敷美觀地区を象徴する建築のひとつ。
倉敷市中央1-3-13 tel.086-422-1542



倉紡記念館

クラボウ創業時の工場で、原綿の倉庫として使用されていたレンガ造りの建物。創設80周年の節目に改装され、記念館となった。
倉敷市本町7-1 tel.086-422-0011

倉敷市の年表

町の歴史		織維産業の歴史	
寛永19年 (1642)	備中松山藩主・水谷氏が本格的に玉島の干拓事業に着手	江戸中期～江戸後期	江戸中期～江戸後期
同年	倉敷が「天領」になる		
江戸中期～	玉島港や下津井港で備中綿の出荷が盛んになり商港となる 北前船の船頭衆によって下津井節が酒の席で唄われる		
寛文4年 (1664)頃	一の口木門完成		
江戸元禄5年 (1692)	素隠居の由来ともいわれる「沢屋善兵衛」というご隠居が年齢のために神社の秋祭りに参加できないので、自分の代わりに面を付けた者を代参させた」という逸話が残る		
享保6年 (1721)	井上家住宅建築		
天明年間 (1781～1789)	旧榎本家住宅(西爽亭)建築		
寛政7年 (1795)	旧大原家住宅の主屋建築を着工		
寛政8年 (1796)	大橋家住宅建築		
天保4年 (1833)	旧野崎家住宅の建築を着工		
嘉永2年 (1849)	板敷水門完成		
明治	明治2年 (1869)	くすだけ 楠戸家住宅が呉服店「はしまや」の屋号を持ち創業	明治11年 (1878) 磐崎眠鬼が錦莞筵を発明する
			明治13年 (1880) 下村紡績所設立
			明治14年 (1881) 玉島紡績所設立
			明治21年 (1888) 倉敷紡績所(現クラボウ)設立
			明治39年 (1906) 足袋製造に児島に初めて動力ミシンが導入される
大正	大正6年 (1917)	倉敷館(旧倉敷町役場)竣工	大正初期 帆布の生産が始まる
	大正11年 (1922)	旧中国銀行倉敷本町出張所竣工	大正7年 (1918) 学生服の生産が始まる
	大正15年 (1926)	高梁川東西用水取配水施設竣工 たかはしがわ しゅはいすい しゃんこう	大正8年 (1919) 足袋製造ピーク、約2,025万足を生産
		・倉敷ガラス ・酒津焼・羽島焼 ・さかづやき はしまやき だんつう	大正10年 (1921) 光輝畳縁の生産が始まる
昭和	昭和3年 (1928)	有隣庄建築	昭和38年 (1963) 昭和39年 (1964)頃 昭和40年 (1965)
	昭和5年 (1930)	大原美術館開館	
	昭和20年 (1945)	第2次世界大戦 終戦	
	昭和23年 (1948)	倉敷民藝館開館	
	昭和25年 (1950)	倉敷考古館開館	
	昭和39年 (1964)	東京オリンピック開催	
	昭和42年 (1967)	倉敷・児島・玉島の旧3市が合併	
	昭和44年 (1969)	倉紡記念館開館	
	昭和46年 (1971)	庄村が合併	
	昭和47年 (1972)	茶屋町が合併	
	昭和49年 (1974)	倉敷アイビースクエア開業	
	昭和54年 (1979)	倉敷川周辺が国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定される	
	昭和61年 (1986)	下津井の町並みが県の「町並み保存地区」に指定される	
平成	昭和63年 (1988)	いそざきみんき 磯崎眠鬼記念館開館	
	同年	瀬戸大橋が開通	
	平成7年 (1995)	むかし下津井回船問屋が開館	平成12年 (2000)頃～
	同年	玉島の町並みが県の「町並み保存地区」に指定される	高品質なプレミアムジーンズが人気となる
平成	平成17年 (2005)	船穂町・真備町が合併	平成30年 (2018)
	平成29年 (2017)	「一輪の綿花から始まる倉敷物語」日本遺産認定	
		学生服誕生100周年を迎える	

構成文化財 MAP

● 構成文化財

